

平成27年度
県南教育事務所重点施策に関する
調査結果について

学校教育課通信

平成 28 年 3 月 4 日（金）第 122 号
編集・発行：県南教育事務所 佐藤 晃

平成 27 年度末の調査結果から、今年度の県南域内の小・中学校の取組について振り返り、成果と課題についてまとめました。主な成果と課題は、以下の通りです。

- 【成果】 ○学力調査結果から自校の課題を明確にした指導の工夫改善
○「信頼される学校づくりを職場の手で」等を活用した研修により、学校事故等の発生の減少
- 【課題】 ▲中学校における県教育委員会作成の指導資料等（道徳、性に関する指導、防災教育、放射線教育）の活用
▲学校評議員や地域住民・保護者等の参加による、校内服務倫理委員会の効果的な取組

自校の調査結果と比較しながらご覧いただき、次年度の学校経営に生かしていただきたいと思います。調査への御協力ありがとうございました。

* 3:あてはまる 2:ほぼあてはまる 1:あまりあてはまらない 0:全くあてはまらない

1 豊かなこころの育成		評価平均	
		小学校	中学校
(1) 道徳教育の充実	① 昨年度の反省をふまえ、多様な指導方法、指導体制の工夫改善をしている。	2.60	2.44
	② 「ふくしま道徳教育資料集」を効果的に活用している。	2.44	2.17
(2) 教育相談体制の整備	③ 児童生徒のニーズに応じた心のケアのため、保護者やSC、SSW、関係機関との連携を密にした教育相談体制が整っている。	2.77	2.89
	④ 前年度の同じ時期と比較し、いじめや不登校が減少している。 ※前年度、いじめや不登校が0の場合は、「3」と回答	2.79	2.00
○ 各学校において、SCやSSWの活用、関係機関との連携を図った教育相談体制が定着している。			
▲ 今年度は、「ふくしま道徳教育資料集」の補訂版が各学級分配付された。内容をよく吟味し、年間指導計画に位置づける等、工夫しながら全学級で活用していくことが必要である。			

2 健やかな体の育成		評価平均	
		小学校	中学校
(1) 体力の向上に関する取組の充実	① 「体力向上推進計画書」について、全職員で共通理解を図り、取組を行っている。	2.72	2.39
	② 「運動身体づくりプログラム」を全学年・全学級において、毎授業時間の8分程度で行っている。 ※小学校のみ回答	2.84	
(2) 食育の推進	③ ある日の児童生徒の朝食を摂食した割合（該当者数 / 全体数）	99%	98%
	④ 朝ごはんコンテストに参加した児童生徒数 ※9月のみ回答		
	⑤ 食育の授業を実施した学級の割合（該当学級数 / 全学級数）	96%	77%
(3) 健康教育の推進	⑥ 肥満度20%以上の児童生徒数 *直近の調査	12%	13%
	⑦ 性に関する指導の年間指導計画に基づき、県版「性に関する指導の手引き」を活用した授業を行っている。	2.56	2.17
○ 小学校では、「運動身体づくりプログラム」の全学年・全学級での実施が定着し、授業開始8～10分間に質及び量とも充実した動きづくりが行われている。			
○ 性に関する指導の実施については、系統的な指導や外部講師による指導、保護者との連携を図った指導など、工夫した実践が行われている。			
▲ 調査によると、肥満傾向児は全県的に小学校に比べ、中学校での出現率が高い。特に、高度肥満（肥満度50%以上）の生徒が増加しており、成人肥満への移行が懸念される。各学校においては、高度肥満の児童生徒及び家庭に対する個別指導、肥満傾向児を増やさないための運動や生活習慣、食に関する指導を、食育推進コーディネーター、栄養教諭等と連携し、継続して実施する必要がある。			

3 確かな学力の向上		評価平均	
		小学校	中学校
(1) 「確かな学力」の向上を図る継続的な検証改善サイクルの確立	① 学力向上グランドデザインに基づく取組と見直し、改善を行っている。	2.88	2.89
(2) 「確かな学力」の向上を図る授業づくり	② 言語活動を工夫したり、板書計画を生かしたりしながら授業づくりを行っている。	2.88	2.72
	③ 学力調査の結果をもとに自校の課題を明確にし、指導の工夫改善に取り組んでいる。	2.91	2.94
	④ 定着確認シートを活用し、児童生徒の学力の定着や授業改善に生かしている。	2.84	2.83
	⑤ 校内研修を活性化し、自校の研究テーマや基本的指導技術等について共通実践を行っている。	2.95	2.78
(3) 「確かな学力」の向上を支える基盤づくり	⑥ 家庭学習や読書の習慣化に向けて、積極的な取組を行っている。	2.84	2.72
(4) 防災や放射線等の基礎的理解と思考力・判断力・行動力の育成	⑦ 指導資料やDVDを活用し、地域の実態や発達段階に応じて、防災・放射線教育を行っている。	2.47	2.28
○ 検証改善のためのRPDCAサイクルを意識した取組が行われている。特に、学力調査結果をもとに指導の工夫改善を図ることに関しての評価が高く、域内の結果にもつながっている。「国語の基礎からの授業づくりセミナー」の研修や「県学力調査からみえた弱点を補充するための問題」の活用により、一層効果的な指導が期待できる。			
▲ 「ほぼあてはまる」とやや低く評価している項目は、小学校が「定着確認シートの活用」、中学校は「板書計画」の活用となっている。低い評価と学力調査の結果との関連性が見えるので、さらに授業改善の工夫が重要である。			
▲ 防災や放射線等の指導資料の一層の活用を図るため、資料の周知、活用の仕方、保管場所の工夫など、全教職員が活用しやすい環境を作っていく必要がある。			

4 特別支援教育の充実		評価平均	
		小学校	中学校
(1) 地域におけるインクルーシブ教育システムの構築と理解啓発の促進	① 「個別的教育支援計画」を作成し活用している。 ※作成する対象は、障がい児を含めて特別な教育的支援が必要な子ども全てです。	2.77	2.61
	② 障がいのある児童生徒一人一人の実態に応じた交流及び共同学習を実施している。 ※特別支援学級のある学校のみ回答	3.00	2.86
(2) 幼稚園、小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実	③ 支援策を検討、共有するとともに、特別支援教育に関する校内研修を行っている。	2.74	2.67
○ 「個別的教育支援計画」の作成と活用、「特別支援教育に関する校内研修」については、該当するほぼ全ての小・中学校において実施されている。			
▲ 通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒数が増加しているため、通常学級の担任にも特別支援教育に関する専門性の向上が必要である。これまでの校内研修を継続しながら、実態に応じたより具体的な指導支援の方法を研修したい。			

学校教育を支える基盤		評価平均	
		小学校	中学校
1 教職員の服務・勤務の確立と適正な人事管理	① 新しい人事評価について、全教職員が理解している。	2.77	2.89
2 学校事故防止の徹底と不祥事の絶無	② 校内服務倫理委員会に、学校評議員や地域住民・保護者等に参加いただき、効果的な取組を進めている。	1.86	1.67
	③ 信頼される学校づくりを職場の力で【平成27年改訂版】を活用している。	2.98	2.83
3 開かれた学校づくりと関係機関との連携強化	④ 保護者は、学校や学級の経営方針について理解している。	2.67	2.78
	⑤ 学校評価の「学校関係者評価」について公表している。	2.81	2.56
	⑥ 地教委や関係機関との連携に努めている。	2.95	2.89
○ 学校事故、不祥事防止のため、「信頼される学校づくりを職場の手で」等を活用した研修が行われ、事故等の発生も減少した。			
▲ 新しい人事評価については、給与への反映等、未定の内容もあり、今後更に具体的な情報をもとに研修を深める必要がある。			
▲ 校内服務倫理委員会への第三者の参加が進んでいない。今後啓発をさらに進める必要がある。			